

進む、イノベーションの“仲間集め”



コンテストの様子は、新型コロナウイルス感染が拡大する状況をふまえインターネットでの配信のみに。視聴者の投票によるオーディエンス賞も設けられた。

●「JICA Innovation Quest
ファイナル・プレゼンテーション」
コンテストの動画はこちらから



2020年2月22日、SDGsゴール2（栄養改善や持続可能な農業推進）をテーマに事業アイデアを競うコンテストが行われ、タジキスタンでの肥満を抑制する食器製造の提案が最優秀賞を受賞した。主催はJICA若手職員有志の提案に基づくプログラム、JICA Innovation Quest（ジャイカ・イノベーション・クエスト）以下、ジャイクエだ。ジャイクエチームは、JICAの組織内外の人材がそれぞれの知見を生かしてイノベーションを共創で生み出すべく、組織内外公募で選考された人材総勢30名、5チームを構成した。

アイデアを生み出す手法を学ぶ1泊2日の合宿、3か月のグループワークの場を経て、途上国からの留学生や有識者から意見も聴取。5チームそれぞれが斬新なアイデアを練り上げて、この日のコンテストに臨んだ。最優秀賞のタジキスタンチームは、現地に暮らす人々のコメントを意匠に反映させ、複数の試作モデルを制作して、斬新かつ実現可能性の高いアイデアを提示した。

JICAの新たな組織的取り組みの一つであるジャイクエ副賞として現地タジキスタンの調査の機会を提供するなど、同アイデアが事業化され、タジキスタンの人々の栄養状態改善が進むことを視野にJICAとしてサポートを続けていく。

ジャイクエが目指す共創によるイノベーションは、今後のさらなる展開が期待される。

ニュース深掘り！ 民間人材とともに国際協力に革新を起こす



JICA Innovation Quest チーム
2018年11月、同期職員5人でチームを結成しジャイクエを企画。JICA内の新規事業アイデアコンペを勝ち残った。現在は後輩の職員も加わり6人体制。前列左から、前田紫さん、金田瑞希さん、齋藤友理香さん。後列左から、山江海邦さん、八里直生さん、神武桜子さん。

ジャイクエは入構3年目の同期職員5人でチームを結成したところから始まりました。原動力となったのは「迷い」です。日々仕事の中で向き合う途上国の課題が途方もなく大きいものに思え、「自分に何ができるのか」「このやり方で本当にいいのか」と悩んでいました。JICAだけではできないことがいかに多いかを痛感する毎日でした。

私たちが希望を見出したのは、人とつながることです。社会にはさまざまな立場から、よりよい世界の実現を模索している人がたくさんいます。多様な分野で活躍する人々の力やこれまでになかった考え方を結集すれば、きっと新しい発想が生まれる。そう信じてジャイクエを立ち上げました。今回発表されたアイデアは、どれもこれまでの国際協力のイメージを超えた革新的なものばかり。私たち運営チームが1年以上取り組んできたことは間違っていないと確信しました。

多くの企業や個人の方がジャイクエに協力してくださいました。「世界のために何かしたい」という人々の思いが、少しずつ形になり始めているのを実感しています。ここで生まれたつながりがさらに大きなものとなり、世界を変える力になるよう、これからも一緒にジャイクエを盛り上げていただけると嬉しいです。

JICA HEADLINE NEWS

3月12日 | ▶ **バングラデシュ 持続的な河川管理を支援**

世界有数の大規模な網状河川の管理知識・ノウハウの習得などを支援。

3月 2日 | ▶ **北岡理事長がパキスタンとパレスチナを訪問**

社会の平和と安定に向けた取り組みを確認し、さらなる関係強化へ。

2月28日 | ▶ **ケニア 経済特区の設立に円借款貸付契約**

モンバサ港南岸のドンゴクドゥ地域に、経済特区設立のためのインフラ整備を支援。



◀◀ JICAのニュース&トピックスをもっと読みたい方はアクセス!
<https://www.jica.go.jp/information/index.html>